

1 基本項目	事務事業名	蜃気楼ネットワーク事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	蜃気楼ネットワーク事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成15年度	終了年度	当面継続	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目目	款	教育費
		政策名	10 明日を担う人づくり				項	社会教育費
		施策名	31 生涯学習の推進				目	埋没林博物館費
		基本事業名	31-3 博物館の充実				アウトソーシング導入状況	
	根拠法令				総合計画等への記載		総合計画に主要事業として記載	

2 事業概要	事業概要	市の観光資源の1つである「蜃気楼」に関する情報の集約、情報交流、発生メカニズムの解明、一般市民への知識の普及を目指す事業
	対象	蜃気楼に何らかのつながりを持つ人、情報及び魚津市民
	手段(活動指標)	蜃気楼交流会の開催、交流会記録誌の発行 日本蜃気楼協議会と連携した講演会の開催
	意図(成果指標)	蜃気楼に関する人、情報等の交流を促進し、魚津市民には郷土の地域資源としての蜃気楼に関する理解を深める。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 研究発表件数	件	10	8	10	9	90.0%	10	
	② 記録誌配付件数	件	100	100	100	100	100.0%	100	
	③								
	成果指標	① 聴講者	人	50	27	50	34	68.0%	50
		② 講演会参加者	人	100	28	100	31	31.0%	100
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	159,000	144,500	159,000	128,800	-10.9%	159,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	20,000	10,000	20,000	10,000	0.0%	20,000
	支出合計(A)	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
	収入合計	円	179,000	154,500	179,000	138,800	-10.2%	179,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	360	500	400	540	8.0%	540
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	1,512,000	2,100,000	1,680,000	2,268,000	8.0%	2,268,000
	総費用(A+B)	円	1,691,000	2,254,500	1,859,000	2,406,800	6.8%	2,447,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<p>○日本蜃気楼協議会と連携し第11回蜃気楼交流会(特別講演会、研究発表会)を開催した。</p> <p>○特別講演会、研究発表会の内容を記録した「第11回蜃気楼交流会記録誌」を発行・配布した。</p>	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由		
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	蜃気楼の調査研究、情報発信を行っている市立の博物館として、民間と連携しながら主体的に取り組むべき事業である。	
目的の妥当性					1 妥当である	蜃気楼については市内外から関心が高く、蜃気楼を通じた人や情報の交流を促進する事業として目的は妥当と考えられる。		
対象の妥当性					1 妥当である	蜃気楼については市内外の関心が高く、対象の設定は妥当である。		
有効性	有効性	B	B	目標達成度	3 低い・未実施	会場容量を参加定員として設定しているが、満席とはなりにくい。また、近年他のイベント等と競合し、参加者の確保が困難。		
				類似事業の有無	1 なし	独自の事業であり類似事業はない。		
				上位施策への貢献度	1 高い	市民等の関心の高い蜃気楼に関する情報を発信することは、生涯学習の充実に貢献している。		
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	必要最低限のコストで実施している。		
				実施主体の適正化	1 適正である	博物館として主体的に実施すべきである。		
				負担割合の適正化	1 適正である	必要最低限のコストで実施しており、市の負担が大きいとは言えない。		
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
	後の方針(評価結果及び今後)	シンポジウム等の補助事業としての実施を引き続き検討する。				評価結果		

1 基本項目	事務事業名	埋没林博物館展示事業		担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	調査研究・展示事業			係名	管理係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成4年度	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標4 人と文化を育むまち		予会計	一般会計	
		政策名	10 明日を担うづくり		款	教育費	
		施策名	31 生涯学習の推進		項	社会教育費	
		基本事業名	31-3 博物館の充実		目	埋没林博物館費	
根拠法令			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
			総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	調査研究の成果をもとに展示を発案・作成し、知識や情報を親しみやすい形で市民及び博物館利用者に提供する。
	対象	常設展示・企画展示内容及び展示物、魚津市民及び入館者
	手段 (活動指標)	企画展「魚津の目玉展」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蜃気楼写真展」を実施
	意図 (成果指標)	展示を企画・製作し、利用者の観覧に供する。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 展示企画開催件数	件	3	3	2	3	150.0%	3
	② 企画展開催日数	日	300	360	260	314	120.8%	300
	③							
	① 企画展示期間入館者数	人	45,000	41,251	41,000	32,833	80.1%	55,000
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円						
	支出合計 (A)	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
	収入合計	円	314,414	314,414	150,000	140,804	-55.2%	200,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	400	800	800	660	-17.5%	660
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,680,000	3,360,000	3,360,000	2,772,000	-17.5%	2,772,000
	総費用 (A+B)	円	1,994,414	3,674,414	3,510,000	2,912,804	-20.7%	2,972,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「蜃気楼写真展」 (5/1~7/31) の企画、開催 ○ 「魚津の目玉展」 (8/1~11/30) の企画、製作、開催 ○ 「魚津ナチュラルギャラリー15」 (12/1~1/31) の企画、製作、開催 ○ 自作展示台の作成等、実物展示を増やす等教育効果を高めた 	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	生涯学習・社会教育施設として目的は妥当である
対象の妥当性					1 妥当である	自然史系博物館として自然科学分野の企画展示を実施し、市内外の利用者に生涯学習の場を提供している
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	改修のための休館期間があり、利用者数は目標を超えるところまでいかなかった
				類似事業の有無	1 なし	類似事業はない
				上位施策への貢献度	1 高い	自然史系博物館として自然科学分野の企画展示を実施し、市内外の利用者に生涯学習の場を提供している
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	必要最小限の予算で実施している
				実施主体の適正化	1 適正である	博物館が独自に実施すべき種類の事業であり、また蜃気楼写真展等は外部団体とも連携して実施している
				負担割合の適正化	1 適正である	公立博物館として自治体の費用負担は適正である。
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針 (評価結果及び今後)	リニューアルによって企画展示室が整備され、展示構成の自由度が向上した。スタッフの育成、人員確保に引き続き努めたい。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	魚津埋没林埋蔵分布調査事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	魚津埋没林埋蔵分布調査事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	平成27年度	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目	款	教育費
		政策名	10 明日を担う人づくり				項	社会教育費
		施策名	31 生涯学習の推進				目	埋没林博物館費
基本事業名		31-3 博物館の充実			アウトソーシング導入状況		導入済（業務委託）	
根拠法令				総合計画等への記載		総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	特別天然記念物指定地内及び周辺に埋蔵される埋没林を非破壊的手法で探査する。
	対象	博物館敷地及び周辺に埋蔵された埋没林
	手段 (活動指標)	地中レーダー探査、電気探査等を委託により実施する
	意図 (成果指標)	探査により分布情報を把握する。得られたデータは埋没林包蔵地の保全、文化財の教育普及等に活用する。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 探査測線延長	m	1,400	1,051	1,400	1,500	107.1%	1,200	
	②								
	③								
	成果指標	① 埋没林の可能性のある反応数	箇所	10	10	10	5	50.0%	10
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	14,000	13,800	22,000	20,800	50.7%	290,000
	② 委託料	円	754,000	754,000	918,000	918,000	21.8%	630,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	184,000	128,920	13,000	2,020	-98.4%	32,000
	支出合計 (A)	円	952,000	896,720	953,000	940,820	4.9%	952,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円	476,000	476,000	476,000	476,000	0.0%	476,000
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	476,000	420,720	477,000	464,820	10.5%	476,000
	収入合計	円	952,000	896,720	953,000	940,820	4.9%	952,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	700	700	700	600	-14.3%	700
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	2,940,000	2,940,000	2,940,000	2,520,000	-14.3%	2,940,000
	総費用 (A+B)	円	3,892,000	3,836,720	3,893,000	3,460,820	-9.8%	3,892,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<p>○富山大学に委託し、埋没林博物館敷地内及び周辺での地中レーダー探査、電気探査を実施した。</p> <p>○調査検討委員会を2回開催し、調査の手法、方向性等について検討した。</p>	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	埋没林の保存・顕彰に必要であり妥当である
対象の妥当性					1 妥当である	特別天然記念物指定地内の埋蔵状況を把握する必要から妥当である
有効性	有効性	A	A	目標達成度	1 高い	計画どおり調査を実施した
				類似事業の有無	1 なし	固有の事業であり類似事業はない
				上位施策への貢献度	1 高い	文化財の現状を把握し博物館の内容に反映させることで社会教育・生涯学習の推進につながる
効率性	効率性	B	A	コスト効率	1 高い	民間の調査会社ではできないあるいはきわめて高額となる調査内容を富山大学へ委託することで費用は抑えられている
				実施主体の適正化	1 適正である	特別天然記念物の管理者として主体的に実施すべきものである
				負担割合の適正化	1 適正である	県補助金を活用しており適正と思われる
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針 評価結果及び今後	H25年度に引き続きレーダーや電気探査で指定地内の樹根の存在を確認したので、最終年度で指定地内の調査可能な範囲をすべて調査する必要がある。また、樹根保存のための基礎的データとして地下水位の状況調査を行う必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	埋没林博物館改修事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	埋没林博物館改修事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成26年度	終了年度	平成26年度	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち			算科目	款	教育費
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				項	社会教育費
		施策名	9 観光の振興				目	埋没林博物館費
基本事業名		9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況		導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	魚津埋没林博物館の常設展示の更新、老朽化した施設設備の改修を行う	
	対象	魚津埋没林博物館の常設展示、施設設備	
	手段 (活動指標)	展示更新：プロポーザルによる業者選定、委託契約 施設改修：入札、工事請負契約(都市計画課委託)	
	意図 (成果指標)	展示及び施設設備が更新される	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度 計画	
			計画	実績	計画	実績	達成率		
活動指標	① 契約率	%			100	100	100.0%		
	②								
	③								
	成果指標	① 事業進捗率	%			100	100	100.0%	
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度 当初予算額
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	
支出内訳	①需用費	円			648,000	648,000		
	②委託料	円			56,499,984	56,499,984		
	③工事請負費	円			25,002,000	25,002,000		
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円			50,016	42,060		
	支出合計 (A)	円	0	0	82,200,000	82,192,044		0
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円			37,500,000	37,500,000		
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円			1,200,000	1,200,000		
	⑤一般財源	円			43,500,000	43,492,044		
	収入合計	円	0	0	82,200,000	82,192,044		0
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人			5	3		
	②年間所要時間	時間				1,500		
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	0	0	0	6,300,000		0
総費用(A+B)	円	0	0	82,200,000	88,492,044		0	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○常設展示の更新 ○施設設備の改修	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由		
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	社会教育施設として自治体が主体的に整備するべきものである		
目的の妥当性				1 妥当である	常設展示の更新時期、施設の老朽化、観光の振興への寄与向上への必要性等に照らし妥当である			
対象の妥当性				1 妥当である	常設展示の更新時期、施設の老朽化、観光の振興への寄与向上への必要性等に照らし妥当である			
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	1 高い	計画どおり改修を完了した			
			類似事業の有無	1 なし	施設固有の課題である			
			上位施策への貢献度	1 高い	観光資源としての質的向上が図られたことで市の観光振興に寄与している			
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	限られた予算・時間の範囲内でほぼ最大限の改修を行った			
			実施主体の適正化	1 適正である	社会教育施設として市が主体的に整備するべきものである			
			負担割合の適正化	1 適正である	県補助金を活用しており適正と思われる			
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当		2次評価	不要		
後の方針 (評価結果及び今後)	計画から完了まで、極めて短期間であり、かつ予算不足の中、概ね満足できる成果が上げられた。学芸員の日頃の調査研究成果の一端を展示に取り入れることができた。				評価結果			